

メタセコイア



2014年7月15日発行
発行責任者：池田 健夫
近江兄弟社学園学園史編纂委員会

昨年度は創立90周年事業と銘打った「学園史資料Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」がようやく一段落しました。編纂室は百年史に向けて仕事を始めています。今年度の編纂委員会は7月と12月に1時間程度の会議時間をもって、編纂室の仕事の中から適切な内容のものを報告する学習の時間を持ちたいと思います。

学園史編纂委員名簿				
委員長		池田 健夫		
副委員長		道城 猷一	奥 達夫	
事務局長		檜山 秋彦	事務局次長	中西 完次
事務局員		林 昌治 (図書)	伊吹 章 (広報)	
委員	子どもセンター	安川 千穂	宮川富己子	
	小学校	武藤 敬助	小森 康三	
	中学校	小野 春男	中島 薫	
	高校	藤沢 俊樹	池田 健一	脇坂 重之
	ハイド館	辻 友子		
	宗教部	池田 隆男		
	国際交流部	豊田 秀三		
	進路部	上田 高志		
	生徒部	伊藤 之久		
	図書館	太田 典子		
	法人本部	押谷 美樹	山中 昭美	
	同窓会	青木香麻利		
	P T A・後援会	森田 一生		
	組合代表者		馬場 啓 伊藤 之久	
	学外・OB	田中 浩一	福田 耕治	

学園教育のルーツを探る

(その2) 発題者 檜山 秋彦

⑦「私は田舎の小学校では35人中一番であったのに、高等学校では、二百五十人の同級生中四番になったので、入学後最初の数ヶ月は、少なからず落胆していた。しかし、高等学校の二年めぐらいから、教育とは必ずしも九十五点以上の点数をとったり、席次を争うことに夢中になることではないということがわかってきた。ここでも私の教育を救ってくれたものは音楽であった。

私はつとめて、私の心を「点数」から引き離すように心がけ、多くの時間をイーストデンバー高等学校の水曜音楽クラブに、ささげるようにした。このことは確かに私の頭脳を明晰にする助けとなり、理解を増してくれたと思う。」(P.27) = 「音楽の教育力」

⑧「私たち兄弟は、小さいころから自分で働いて小遣いをもっていたので、当時デンバーで発行される、四つの新聞の配達をしていた高等学校の学友たちの仲間にはいって、学校の余暇に、新聞配達をしたことは自然のことと思われた。幸運にもデンバー・ポストという新聞の配達系統第五十二号線地域の、配達権利を譲り受けることができた。その新聞は、午後発行される新聞であったから、平日は放課後配達し、日曜日だけは朝食前に配達した。

第五十二号線地域というのは、…ここは市の中でも、最も頑固な人々の住む地域で、集金が一番困難であるという評判であった。もう一つ困っ

たことには、朝刊の方では、配達人に定まった俸給を支払っていたが、夕刊の方は、新聞を配達人を買わせて、一週間ごとに購読者から集金をさせる制度であったので、料金未納者がある場合、自腹を切らねばならなかった。私たちは一週間分を七セントで卸してもらい、購読者からは十セントを集金するのであった。だから、一町内に百軒の購読者があったとして、もしも、上手に集金できれば、週に九ドルもうけることができたのである。実際問題としては、完全に集金するということは不可能であったが、私たちは、購読者に約束を守らせる点では、かなりの成功を収めていた。」(P.30-31)

⑨「デンバーでは、市の法律で日曜日には市内の酒場をことごとく閉鎖することになった。」「ある日曜日の朝、朝刊を階上の下宿人の部屋に配達して階段を降りてくると、酒場の裏口が開いていた…盛んに営業をやっており、折から口ひげをふきふき裏口から出てきた顧客は、…その地区担当の警官に外ならなかった。」(＝直接その警官に言う＝巡回中の二人の警官に言う＝警察本部に行く＝)「私は警察という所は、たいして期待できないところであるということを学んだ。」(＝酒場の主人の脅迫＝懐柔＝新聞社の販売課長の呼び出し。＝)「私が私の配達区域の購読者の一人に迷惑を及ぼしていることを聞いているから、私の仕事は、新聞配達であって市政の改革ではないということを、覚えていよう申し渡した。」「察するところ、警察と酒場と新聞社との間には、かなり緊密な協定が成り立っていたらしく、…私は何か他の方法で小遣いをもうけねばなるまいと考えた。」(P.33-34)

「大学時代の生活で、最も満足に思うことは、

第一学年を除いて、勉強しながら学費と生活の全部を、自分で働いて得たことである。(p.77) = 「自活＝自給自立の教育」

㊤「高等学校の教育課程の中で、私の全生涯にわたって永続的な印象を与えてくれたものは、植物学の学習に関して起こった一事件である。(＝「水耕栽培」で第三世代の豆粒も立派に発芽する事を発見＝) 私が、この経験によって得たことは、「不可能」といわれていることを、実験してみることに對する熱情であった。その後、三十年もたたないうちに、たいいていの発明は、素人になされることがわかってきた。専門家はあまり多くのことを知りすぎているので、彼らは、自分たちの理論や原則によって、そういうことはできないと容易に判断する。ところが素人にはそれがわからないう。だからできるかどうかやってみて、できるということを発見するのである」＝「実証の教育」

㊦大学時代＝優勝祝賀のためにチーム全員にビールをふるまった教授の「(校門内での飲酒・喫煙の禁止という)校則違反の扇動」追及事件＝「私は、YMCAの委員の一人であったので、この相談にのった。この事件の衝撃を受けた点では、私も人後に落ちなかった。しかし、この問題は大学当局に表沙汰にする前に、直接その教授と話し合いをすべきであると思ったので、そのことを主張した。大多数の委員たちはこれに賛成しなかったが、とにかく(「大学の総長と理事会とに抗議を申し込」むという)決議の実行を二十四時間延長し、その間、その教授と会談することを許してもらうよう頼んだ。これに対し委員会はついに同意した。…教授は「熱狂のあまりちょっと脱線したので、自分としては、決して校則違反をたきつけたわけでもないし、そんなつもりは毛頭ないと言明された。」「私は、ただちにこれを委員会に報告した。委員会は詮議の末…先生としては…十分その重大性を認識して反省せられたものと信じて」抗議をとりやめた。(p.39～40)＝「人間への信頼」

その後、十余年を経て、…ベルリン市 YMCAを訪れ、食堂でお客にビールを出しているのを見たとき、初めて、きつすいのドイツ人にとって、ビールというものは、英国人に対するお茶や、米国人に対するコーヒと同じくらいにしか考えられていないのだということがわかった。こうして私は、ドイツ人がビールを飲み、フランス人がぶどう酒を飲むことに對して寛大にはなったものの、地球の他の部分において、アルコール飲料の流行を防ぐ運動では、決してほこ先をにぶらさなかった。(p.41)＝「自製の教育」

㊧「私が高等学校時代に課外活動を通じて、多くの教育を受ける術を学んでおいたことは、大学生活をはじめににあたって、大きな利益となった。高等学校時代と同じく大学時代にも、私はもう小学校時代のように、点取虫になって書物にばかりかじりつくようなことはなかった。大学の学生YMCAや、男学生のための文芸部の活動が、自由時間の相当な部分を占めるようになった。(P.65)

㊨「二人の親友」＝「大学時代には、ほかの重要な出来事にもまさって、私の後の生涯に深刻な感化を与えた経験が二つある。」「その一つは、私

の同級生の中に、一人の懷疑論者の現れたことである。」「他の一つはイーストデンバー高等学校時代からの仲よしだった親友の交わりで、私と正反対の立場に立つ特別の敵手…無神論の青年であった。」「この兩人とも私を外国伝道界にふりむけるための重要な役割を演じた。」「彼(H.C.A)と私とは、あらゆる点において両極端であって、互いに近づけば、あからさまに言葉の上ではなかったが、本能的には、絶えず反発していた。」「

「そして、私の提案によって、彼が私に貸してくれる彼の学説に関する書物を、私が一冊読む間に、彼も私が選択する一冊の本を読むということをし合させた。」「この期間中に私は、…多くの大切な教育を受けることができた。」「私は…唯物主義の、最も力強い弁証を学ばねばならなくなった。」「もし私が、好奇心や懷疑心をもって、これらの思想をかじっていたなら、あるいはそれによって脱線していたかもしれない。」「しかし、私は友だちを助けようとの意図をもって、彼の立場を研究していたのである。それで私は、あらゆる理論をたんねんに取り上げて分析し、その結論に対しては、私の理性に納得の行くような解答を発見するまで、著者と取り組んで徹底的に研究した。そして私は、意見や見解の相違については論争せず、兩人が読んだ本について、お互いに話し合いをする準備をしたのである。」「私は…これら課外の勉強に、多くの時間をかけねばならなかった。しかし、私はこうして費やした時間と労働を後悔していない。」(P.45～48)＝「友人の教育力」

(c)学生伝道隊運動大会参加＝「コロラド全州からただ一人の代員」の責任感。「私個人としては静かに孤立している姿であった。それは私の進むべきコースは、すでに決まっており、建築家になるつもりでいたからである。もちろん、私は外国伝道に對しては強力な支持者になる決心であった。」「

Howard Taylor 女史の講演＝「神の召命を避けていた…傲慢の罪」。「私がこの大会の代員に選ばれたのは、単なる偶然の出来事ではなかったということを知った。」(P.71) ①コロラド大学に専科生としてではなく、正規生として入学したこと。②二年生で学生 YMCA の会計係に任命されたこと。③「年度初めの集会で、会計係が演説をして…会員に寄付金の予約を紙に書かせ…ることになっていた」。そのとき聖書(マルコによる福音書 12 章 41～44 節、他)の「レプタ二つをささげた」「貧乏な寡婦」の話をして「神の国の事業を支持するため、個人的な必要を犠牲とするのでなければ、われらは、真に神の国に尽くしている者とは言えない」と語ったこと。④「その結果、320 ドルの予約があつて…「種々の事業計画を拡充することができ」、その功績により、「カナダへ旅行できるという魅力」を伴う「大会」代員に推されたこと。(P.66-67)

「私は、かたく信ずる。すべての「成功」とは、意識するとしないうにかかわらず、完全に神の意志の道具になりきった者の、到達する境がいであり、すべての「失敗」とは、創造主との接触を失うか、神の導きに従わずに、自己の欲望や考えに従ったために、神との連なりが遮断された者の、行きつく到達点なのである。」(P.119)＝「信仰の教育＝天命を知る教育」



内村鑑三・賀川豊彦と 近江兄弟社

(その2) 発題者 中西 完次

① 第3期 多彩な教育事業の展開(1930年代) 世界恐慌・昭和恐慌・農業恐慌への取り組み

大正期の社会改良運動・自由主義教育の高まりをうけて昭和期に入り、近江ミッションの教育事業は勤労者の意識の向上、農村恐慌からの農村の復興や社会的差別の解消に取り組み、さらに多彩な展開をみせるようになった。この時期は近江ミッションの理想の実現のため教育事業の試みを果敢に展開した時期であった。その背景には近江ミッション(1934年、賀川豊彦の命名により近江兄弟社と改名)の事業の発展と以前からあった内村鑑三・賀川豊彦との交流などが考えられる。これらの関係は今後、資料の整理・分析とともにあきらかにしてゆかねばならない課題である。



内村鑑三

短期国民夜学校・湖畔国民高等学校・農村青年学校(学会) 1929年(昭和4)～

当初県下の農村を巡回し、農閑期の一定期間開かれた農業をはじめとする職業人のための学校。期間も1ヵ月間から1週間、また夜間のみの開講や宿泊による寝食をともにした学習など地域の実情にあわせてさかんに開講された。この活動には内村鑑三や賀川豊彦の影響がみられる。その範はデンマークでグルントヴィーがはじめた国民高等学校にあり、特に農村恐慌のはじまる1931年以降は疲弊した農村の復興という使命感をもって積極的な活動を展開し、その意義は増していった。近江ミッションの教育会館で開講されたものは農村青年学校と称し、第1回開講(昭和8)には賀川豊彦がまず「農村設計論」の講義をおこなっている。第4回(昭和11)以降は農村青年学会と改称されている。各地の講座の内容には共通したものがみられ、「哲学講話」・「世界思潮」などの世界情勢の理解からはじまり「農業経済」・「デンマークの実情」「養鶏の実際」などの農業論を中心として「農村美術と農村娯楽」・「民芸の実際指導」など農村文化の創造にいたるまで実に多岐にわたっている。講師には賀川とともに日本農民組合の創設者である杉山元治郎を招き、常には近江ミッションの関係者をはじめ京都帝国大学や同志社大学の教授があたるなど高度で充実したものとなっている。この活動は戦後も県下各地でしばらく続けられ、多くの農村指導者を生み出した。

近江勤労女学校 1933年(昭和8)～

ヴォーリズの協力者であり近江兄弟社の設立のメンバーである吉田悦蔵が「生活学校」のビジョンをかかげて校長となって設立。近江兄弟社の女子従業員を対象とし、「少人数教育と個性尊重、家庭的雰囲気、労作教育、自助の精神、自治協力の精神、宗教即生活」の実践を目的とした。1935年(昭和10)3月に「近江兄弟社女学校」と改称。1943年(昭和18)12月、文部省から高等女学校に指定される。

向上学園 1933年(昭和8)～

吉田悦蔵がメンソレータム工場の女子従業員の教養増進のため設立。「工場」と「向上」の意味をかけて

命名された。当初は修身・国語・地理・歴史・一般家事・育児・看護法・作法・自然科学・公民・料理・和裁・洋裁・体育・音楽などの多彩な教育内容を行った。1934年(昭和9)、「工場女子従業員教育」と改称。1937年(昭和12)、再び「向上学園」に戻る。その後、科外として茶道・生花・手芸・時事問題・弓道・薙刀・女子護身術・習字・珠算などが加わる。戦時下の1944年(昭和19)、「女子青年学校」と改称。戦後の1948年(昭和23)、新制の「近江兄弟社高等学校・定時制部」として再出発。1978年(昭和53)、45年間の特色ある教育の歴史を閉じる。

近江家政塾 1933年(昭和8)～

吉田悦蔵夫人の清野が塾長となって設立、「基督の精神に基づいて女子の特性を涵養し、家庭生活に必要な諸技芸の研究を共にしなして実力ある婦人を養成するを以て目的とす」をかかげ、修身・料理・英語・茶の湯・手芸・裁縫・音楽・生花・体操を教授した。

大林子どもの家 1936年(昭和11)～

一柳満喜子が実質の指導責任者となって開設、八幡町内にある被差別(未解放)部落大林の子どもたちへの保育にあたる。当初、大林の部落内の共同浴場の2階に開設されたが、1年後には慈恩寺町内に移される。その経緯をはじめとして残された資料による調査・研究・実態解明は重要な課題である。

国際人教育の変遷 (その2)

発題者 伊吹 章

(2) 草創期 (海外研修旅行と短期留学の開始)

この教育課題が具体化していくのは、近江兄弟社学園創立50年を迎えた1972年が始まりである。この年に国際交流に関して、2つの大きな出来事があった。一つは、高校2年生の韓国への修学旅行が実施されたことである。戦後の日本初の海外への修学旅行とされている。((財)日本修学旅行協会「修学旅行のすべて1990」)当時の韓国は、朴正熙が大統領で、3期目に入り、ほぼ独裁体制に入っていた。北朝鮮を国家として認めたとはいえ、脅威はあり、1971年12月に出された国家非常事態宣言下にあった。また、日韓相互に、互いの情報は少なく、さまざまな偏見が日本国内にあった。そういう社会情勢の中で行われた修学旅行は、画期的であったと思われる。韓国への修学旅行は、翌1973年も実施されたが、1974年は情勢悪化で中止された。



韓国への修学旅行が再び実施されたのは、1985年であった。

もう一つは、アメリカへの短期留学であった。1972年に第1回が実施された。その当時は「米国語学研修」という名称が用いられた。このプログラムは、学園独自のものではなく、CHIという浜松の牧師の主宰する団体の企画によるものであった。複数の学校が参加している。初回の引率は、辻友子教諭と山本肇事務長であった。10名の中高

生が参加した。アメリカ・カリフォルニア州サンルイスオビスポ市にある大学の寮に約 1 ヶ月滞在し、平日の午前中は、英語学習、午後は近隣の観光、週末はホームステイ体験というものであった。プログラムの終わりはサンフランシスコ観光をした。翌年は、1972 年と同じ内容のコースに 9 名の中高生が参加した。同時にアメリカをバスで横断するという内容のプログラムにも 5 名の高校生が参加した。これはこの年だけであった。1974 年～1980 年までは、滞在型のプログラムに学校として参加し、多いときで 21 名の中高生が参加した。1981 年は、参加希望の生徒が少なく、個人参加となった。

(3) 制度化の動き（組織）

この間、国際交流に関しては、海外交流委員会という委員会が組織され、英語科の教員から委員が選ばれていた。その後、国際交流委員会に名称変更され、1995 年には中高部国際栗生委員会となり、現在に至っている。1999 年には、学園国際部長というポストができ、中高部だけでなく、学園全体の国際交流を担当することになったが、事実上は、中高部と小学校の範囲である。

1982 年になって、学園独自で短期留学を企画実施することになった。1982 年は、アメリカ・カリフォルニア州ロサンゼルス郊外にある Village Christian Schools との交流の始まりの年で、春休みを利用して、約 2 週間のホームステイを中心としたプログラムであった。以後、この形が踏襲され現在に至っている。

中長期留学については、1982 年に交流を始めた Village Christian Schools と長期の留学生の交換について試験的に実施された。1984 年同校から 2 名の男子生徒を約 10 ヶ月間受け入れた。交換に 1 名の生徒（女子）を派遣した。この交換留学は、1 回限りであった。理由は、双方に十分な内容についての理解がされていなかったからである。とりわけアメリカ側としては、日本においてもアメリカと同様の学習ができると期待していたということがあった。

1985 年になって、留学や留学の受け入れ、帰国生徒の受け入れなどについての規程を整備し、書類一式などをまとめた「国際交流関係規程集」が発行された。この内容については、国際キリスト教大学高校の規程を大いに参考にさせてもらった。「何ごとにも先達はあらまほしきことなりけり。」

(4) 展開

姉妹校の提携は、交流の発展と共に増えていった。2014 年 2 月現在での姉妹校は次のとおりである。⑫の淡江高級中学は、1989 年から研修旅行で交流している学校であるが、つい最近姉妹校の提携を申し入れ快諾された学校である。提携にそれぞれの経緯がある。交流校についても、今後姉妹校提携の可能性はある。一方、姉妹校の中には、担当者が代わって交流の熱が冷めてしまい、当初のような交流の途絶えた学校もある。

それぞれの学校との交流の経緯などについては、資料にまとめた。（姉妹校等データベース）本稿には掲載は割愛する。

姉妹校（提携年）

- ①アメリカ・カリフォルニア州 Village Christian Schools（1983）
- ②アメリカ・ミシガン州 Grand Rapids Christian School Association（1987）
- ③オーストラリア・クイーンズランド州 John Paul College（1987）
- ④ニュージーランド・タウランガ市 Bethlehem College（1994）
- ⑤中国・江蘇省 蘇州中学（1996）

- ⑥オーストラリア・タスマニア州 St.Patrick's College（1998）
- ⑦韓国・慶尚南道 昌原南高等学校（2001）
- ⑧タイ・バンコク市 Roong Aroon School（2006）
- ⑨中国・江蘇省 南京外国語学校（2006）
- ⑩マレーシア・クアラルンプール市 Wesley Methodist School（2006）
- ⑪英国・サフォーク州 Woodbridge School（2012）
- ⑫台湾 台北市淡江高級中学（2014）

交流校（提携年）

- ⑬香港 九龍華仁書院（Wah Yan College）（1981）
- ⑭シンガポール St.Andrew's Junior College（1989）
- ⑮香港 聖士提反書院（St. Stephen's College）（2000）
- ⑯中国 蘇州大学附属中学（2002）
- ⑰オーストラリア Citipointe Christian College（2008）
- ⑱中国 蘇州田家炳実験中学（2009）
- ⑲アメリカ コロラド大学（Colorado College）（2009）

(5) 英語教育との関連

いまでも、日本中の学校が外国人教員を採用しているが、本学園では早くから、外国人教師を採用し、県下の英語教育をリードし、英語教育の推進に貢献してきた。年号のわかる写真としては、1956 の写真がそれを証拠立てるものとしてある。

歴代の英語教員で氏名の記録が残るものは別紙資料（学園歴代外国人教員一覧）のとおりである。（教職員名簿より作成）

学園歴代外国人教員一覧（1970 ～ 2006）

西暦	元号	高校		中学校	小学校	備考
		中国語・韓国語	英語			
1970以前 昭和45前		資料なし				
1970	昭和45		R.Danielson			
1971	46		Mr. & Mrs. Haley			
1972	47					
1973	48					
1974	49					
1975	50		Louis Curto & Beki Curto			
1976	51					
1977	52					
1978	53					
1979	54					
1980	55		E.G. クラーク			
1981	56		E.G. クラーク			
1982	57		E.G. クラーク			
1983	58		E.G. クラーク		D.ダモン	
1984	59		E.G. クラーク		D.ダモン	
1985	60		E.G. クラーク		D.ダモン	
1986	61		D.ダモン	E.クック	D.ダモン	
1987	62			E.クック、バンクソン	D.ダモン	
1988	63		バンクソン夫妻		D.ダモン	
1989 平成1			バンクソン夫妻		D.ダモン	
1990	2			ウエーディ・キャンベル	D.ダモン	
1991	3			リンダ・ステファン	音羽レベッカ	
1992	4			リンダ・ステファン	音羽レベッカ	
1993	5			リンダ・ステファン	音羽レベッカ	
1994	6	蔡金容、辛光雄	デビッド・ワインベンガー	マーク・ウィズナー	音羽レベッカ、ビクター・ピーターソン	
1995	7	陶述燕	デビッド・ワインベンガー	マーク・ウィズナー	音羽レベッカ	
1996	8	張恒悦、鄭元泳		マーク・ウィズナー	音羽レベッカ	
1997	9	張恒悦、李相順	マーク・ウィズナー	エリック・ケイン	音羽レベッカ	小・仁科満子
1998	10	張恒悦、金仁姫	グレッグ・ハート	エリック・ケイン	デビッド・カストロ	
1999	11	張恒悦、金仁姫	グレッグ・ハート	エリック・ケイン	デビッド・カストロ	
2000	12	張恒悦、楊良、李殿技	グレッグ・ハート、マイケル・ベズー	エリック・ケイン	デビッド・カストロ	
2001	13	張恒悦、張高良	グレッグ・ハート	ドウェイン・マコーミック	デビッド・カストロ	
2002	14	王国語	グレッグ・ハート	ドウェイン・マコーミック	デビッド・カストロ	
2003	15	蘇日輝	グレッグ・ハート	ドウェイン・マコーミック	デビッド・カストロ	
2004	16	蘇日輝(神山美奈子)	グレッグ・ハート	ドウェイン・マコーミック	デビッド・カストロ	
2005	17	蘇日輝、韓守信	グレッグ・ハート	マシュー・グラント	デビッド・カストロ	
2006	18	劉中平、韓守信	グレッグ・ハート	マシュー・グラント	デビッド・カストロ	



英語教員として来日したアンダーソン夫妻（1956）